

(第6号様式)

学位論文審査の結果の要旨

氏名	Irwan Setiawan
審査委員	主査 羽鳥 剛史
	副査 吉井 稔雄
	副査 松村 暢彦

論文名

An Empirical Study of Protected Values and Public Acceptance around Infrastructure Projects in Indonesia

審査結果の要旨

本論文は、インドネシアにおける社会基盤整備事業を巡る合意形成問題の解決を見据えて、地域住民のプロジェクトに対する否定的な態度の実態や緩和策について、社会心理学における「保護価値」という心的概念を用いて実証的に明らかにすることを目的としている。近年、インドネシアでは、急激な経済成長と相俟って都市・地域開発や社会基盤整備が盛んに進められている。それと共に、民主化の進展に伴って、地域住民が社会基盤整備に関わる計画プロセスに関与する機会も増えつつあり、社会基盤整備事業を進める上で住民の合意を得ることが重要になっている。一方で、地域開発や社会基盤整備を巡る利害対立が先鋭化した結果、地域住民の過度に否定的な反応や反対運動が顕在化し、当該事業が頓挫・遅延する事例も少なくない。本論文は、こうした課題に対して、これまで土木計画学や合意形成研究の中で十分に着目されてこなかった「保護価値」という心的概念に着目し、社会心理学的なアプローチにより、保護価値の実態や特徴を実証的に分析するものであり、この点において十分な新規性と独創性が認められる。さらに、地域住民の極端な態度を緩和し、公共受容や合意形成を推進するための方策を検討することにより、現場の政策実務に資する有用な知見を得ることが期待できる。

本論文は以下のように構成されている。第1章では、インドネシアにおける社会基盤整備事業、住民参加や合意形成問題の現状や近年の傾向が述べられ、また論文の目的や全体の構成が記述されている。第2章では、公共受容や保護価値の概念や既定要因について既存研究で得られた知見や課題が整理されている。第3章では、ジャカルタにおける住民移転事業を対象としたアンケート調査を実施し、保護価値が住民の受容意識に及ぼす影響について検証している。その際、従来の研究で得られた知見を踏まえて受容意識の形成を説明する心的モデルを構築し、共分散構造分析により保護価値の影響を定量的に検討している。第4章では、社会基盤整備の事業手続きに着目し、どのような手続きを採用することにより、保護価値が緩和されるかを検討している。そこで、同一の事業が異なる手続きによって採択された場合を想定した仮想的なシナリオ実験を行い、それぞれの手続きの効果を比較している。第5章では、社会心理学の価値防護モデルに基づいて、

保護価値が計画手続きに及ぼす影響に関する仮説を措定し、本仮説の妥当性を検証している。具体的には、南スラウェシ州の高速道路事業を取り上げて、地域住民の賛否意識を尋ねるアンケート調査を実施し、保護価値の実態を把握すると共に、保護価値が手続き的公正感に及ぼす影響を検討している。第6章では、保護価値を緩和するための方法として、社会基盤整備の社会的価値に関する内省過程に着目し、本手法の効果が検討されている。ここでは、高レベル放射性廃棄物処分場の立地問題を対象にシナリオ実験を行い、内省機会が保護価値に及ぼす効果について検証した結果について述べられている。

得られた主な知見は以下の通りである。

- ・一連の実態調査より、地域住民において社会基盤整備事業の帰結に関わらず、当該事業に反対する傾向が一定程度見られ、保護価値の存在やその影響が経験的に確かめられた。そして、保護価値の背景には、政府に対する不信があることも示された。
- ・社会基盤整備事業の計画手続きにより、保護価値が緩和される傾向が確認された。特に、話し合いにより事業が採択された場合に、費用便益分析により事業が採択された場合に比べて、保護価値を有していた人も当該事業に合意する可能性がより高まる傾向が示された。その一方で、価値防護モデルが示唆するように、保護価値は計画手続きに対する公正感を低下させる効果も確認されており、計画手続きの効果は限定的である可能性も示唆された。
- ・社会基盤整備の社会的価値に関わる内省実験より、内省機会を通じて保護価値保持傾向が低下する傾向が見られた。特に、保護価値を保持していた人ほど、当該事業に対する自己の理解度を高く評価する傾向が示された。そのため、本実験の内省課題を通じて、そうした理解の錯覚が緩和すると共に保護価値も緩和された可能性が示唆された。

学位論文の公聴会は令和1年8月20日に開催され、続いて開催された学位論文審査会において慎重に審議を行った。審査の結果、本論文は、インドネシアにおける社会基盤整備に関わる保護価値の実態や影響を明らかにすると共に、保護価値を緩和し公共受容を促進するための有用な政策を提案しており、得られた成果は学術的・実務的に重要な貢献をしていると判断でき、博士（工学）を授与するに値すると全員一致して判定した。